



〒108-0071

港区白金台  
3-7-1



(3443) 5666

<http://shirokanedai-kg.minato-kyo.ed.jp/>

5歳児 みんなのおまつり



## 豊かな「かく・つくる」遊び

園長 新井 智子

梅雨の期間は、室内で製作やごっこ遊びをすることが多く、絵をかいたり、遊びに使うものをつくったりと、じっくりと取り組む姿が見られました。

先日、年長組が「みんなのおまつり」と称して学年で「しゃてき」「おぼけやしき」「たからさがし」「まとあて」の4つのゲームをホールや保育室につくり、提灯を下げた場を整え、年下の友達を招待してお祭りを開催しました。

4月下旬に取り組んだグループのこいのぼりづくりの経験から、次のステップに移り「10人前後のグループの友達と1つのゲームのお店をつくり運営する」という目的をもって取り組みました。「玉をどうやって飛ばそうか」と道具をつくったり「スリラーカーに乗っていくのはどう？」と、乗り物をつくったりしました。絵の具や油性ペンを使い、大きさや形を考え、繰り返し試しながら必要なものを友達とつくり、場を構成してお客さんを呼ぶ看板をかいて取り付けました。考えたことを友達に伝え、イメージを共通にしながら、協力してつくったりお店の役割や進め方を決めたりしました。

お祭り当日は、年中児や年少児がお客さんになり、それぞれのゲームコーナーは大盛況でした。「友達とつくった！楽しかった！お客さんが来てくれてうれしかった！」と年長児は、満足感をもったと思います。現段階では、まだまだ教師が間に入って調整したり、ものづくりのアイデアを提示したりと、援助が必要な活動ですが、この経験がやがて運動会や発表会、または自分たちで創りだしていく遊びの土台になり、取組の活力を生み出していきます。

さて、文部科学省の「幼稚園教育要領」では、描画や製作に関わる表記を「描く・作る」とせず、「かく・つくる」としています。それは、様々な幼児の遊びが総合的であり一様ではないこと、例えば絵の具や砂に触れることも、シャボン玉を飛ばしてみることも、すべてが表現や創作としての「かく・つくる」活動として位置づいているからです。これは子どもたちの感覚遊びと言われる特性、遊びの多様さ、豊かさを尊重したものです。幼稚園は、子どもたちの「かく・つくる」を支え、伸ばし、豊かな遊びが展開できるよう心掛けていきます。

### <7月の指導のねらい>

#### 3歳児

- いろいろな水遊びを通して、水の心地よさや楽しさを感じ、水に親しむ。
- 着替えや所持品の始末など、園生活に必要なことを自分でしようとする。

#### 4歳児

- いろいろな水遊びを通して水に親しみ、友達と一緒に遊ぶ楽しさを感じる。
- 自分の思いやイメージを言葉や動きで表現し、相手の思いを知って自分なりに受け止めようとする。

#### 5歳児

- 自分の思いや考えを伝えたり、友達の思いや考えに気付いたりしながら、友達と遊びを進めていく楽しさを味わう。
- 身近な自然や栽培物を見たり世話したりし、面白さや変化に気付く。



